

【実践報告資料②】

介護助手にお願いする 業務選定の視点について

社会福祉法人 暁会
特別養護老人ホームあかつき苑防府
薬師寺泰裕

1



暁会 介護助手募集

3

運営理念

社会福祉法人 暁会は入所者・在宅者・通所者・健康増進サービスも含めた健常者までも視野に入れたサービスの提供に取り組みます。

- 法人設立 平成8年1月
- 実施事業 老人福祉施設、障害者支援施設
在宅サービス、児童通所事業 など
- 事業実施地域 山口県下関市、防府市
東京都江東区

2

● 防府地区

- ・ 養護老人ホーム やはず苑
- ・ 特別養護老人ホーム あかつき苑防府
- ・ グループホーム あかつき防府
- ・ デイサービスセンター おおひらの里
- ・ やはず居宅介護支援事業所



4

防府事業所のあゆみ

- 平成17年4月 養護老人ホームやはず苑 開設（定員50名）
（防府市社会福祉事業団より運営移管）
- 平成18年4月 やはず住宅介護支援事業所 開設
- 平成23年6月 デイサービスセンターおおひらの里 開設
（定員30名）
- 平成26年3月 特別養護老人ホームあかつき苑防府 開設
（定員29名）
グループホームあかつき防府 開設（定員18名）

5

あかつき苑防府 基本理念

住み慣れた地域で、今までの暮らしが継続
できる環境を目指します。

心も体もほっと暖まるケアを目指します。

地域福祉の拠点として、地域や家庭との結びつ
きを重視した運営を行います。

7

特別養護老人ホーム あかつき苑防府

定員29名（全室個室）

ユニット名 桃 10名、桜 10名、楓 9名
平均介護度4.1 男性 3名 女性 26名

職員 38名 男性 8名 女性 30名

介護助手 2名（介護職員初任者研修取得）

6

介護助手導入プロセス

《導入の理由》

介護助手を導入したきっかけは
介護職が本来の介護業務に専念できない状
況がありました。そのため、介護助手の導入
により、少しでも負担を減らすことができたら
と思い、事業への参加を決めました。

8

《募集の周知》

介護助手募集開始 1回目

令和元年12月

開催場所 公民館

: 地域住民等への説明会の開催

初年度は、2名の参加

職場体験し1名採用

(未経験、シーツ交換等掃除)

9

《募集の周知》 2回目令和2年10月

開催場所: 公民館

参加者: 8名

以前のことを踏まえ説明会では介護職員との業務の違いを丁寧に説明介護助手事業について知ってもらうため、施設の説明や事業の意義、介護助手の業務などを具体的に説明し参加者の中には体力面等で不安を感じている方も少なくなかったため、**介護職員の業務と介護助手の業務の違い**については、資料を用いて具体的に説明しました。

11

※実際に一人の方が介護助手という形で生活援助に関わっていただきましたが勤務が始まると、生活援助では入居者とのコミュニケーションだけでなく、施設職員ともうまくなじめず職員にわからないことを聞けないという状況になり1カ月で持病の腰痛があったこともあり退職されました。

10

《説明会の内容》

介護助手の仕事とは？

介護の仕事は、入浴介助、排泄介助、自立支援など多岐にわたります。

介護助手は、主に利用者様に対する直接介護以外の周辺業務を行います。

12

どんな仕事が介護助手には？

シーツ交換	部屋の掃除や食事の片付け
施設内の清掃	換気や加湿など環境整備
食事の配膳	備品の補充や交換
整髪・整容	移動時の声掛け
見守り	送迎
話し相手	
趣味活動のお手伝い	
車の清掃	
草刈り・環境整備	

これらの仕事を
すべて担ってもらうわけでは
ありません
自分で出来そうな業務を
一緒にみつけましょう！

13

説明会后、改めて電話で施設見学希望の方が5人いました。何人かは施設の経験があり資格を持っている方でした。

その方には、後日面談を実施しました。面談では、勤務条件のすり合わせなどのみでなく、その方の「人あたりの良さ」も大切にしました。

あかつき苑では1名採用となりました。

15

当施設の介護助手について

業務内容

8:30~11:30 3時間 週3日~4日

- ・朝食後の食器洗い
- ・シーツ交換 1日2名程度
居室の掃除かけ、拭き掃除、洗面台拭き
- ・洗濯物たたみ
- ・入浴後の洗濯干し
- ・トイレ掃除

必要な曜日・時間帯等をしっかりと設定し、そこにマッチする人を採用することにしました。

14

介護職員に一番多忙な時間の抽出

普段の業務の中から、介護助手の業務になり得るものを切り出していきました。

その結果、食事の準備、誘導、配茶、風呂掃除、洗濯、衣類まとめ、シーツ交換などの業務が切り出されました。中でも、夜勤明けの朝食時の洗い物、日常のシーツ交換は、現場からのニーズが高いものでした。

16

一つ一つの業務の切り分け

身体介護か周辺業務か程度の大まかな区分であり、各介護助手の能力に応じて柔軟に対応し食事介助は介護職員の仕事であり、嚥下機能の低下している利用者では誤嚥のリスクも考慮し、基本的に介護助手は関与しない。どの程度の業務を介護助手に担ってもらうか、職員で話し合いを行いました。

17

68歳女性

経験年数 6か月

介護職員初任者研修修了

介護経験2年



19

介護助手のスキルを考慮しながら業務調整 介護助手に対する職員間の共通理解の工夫

掃除、洗濯、洗い物、シーツ交換、食事の準備などの業務を想定し、その人に合わせて個別に業務内容を調整しました。

勤務にあたっては、普段の業務の中でコミュニケーションを大切にし、困ったことがあればいつでも話してもらえるような環境作りをこころがけています。

特に、慣れないうちは体力的にも大変だと感じる場合も多く、普段から気にかけることが重要だと感じています。

はじめの2週間ほどは、ユニットリーダーがマンツーマンでOJTを行いその後徐々に現場の職員にパトタッチしていく方法をとりました。

18

一日の業務

8:00～12:00 週4日×4時間

朝食配膳準備(盛り付け補助)

エプロン、おしぼり配り

配膳

食事介助(1名専属)

下膳

洗濯

シーツ交換(1日2名迄)居室掃除

トイレ掃除、床掃除



20

介護助手の声

毎日、入居者と接していて毎日変化があり楽しいです。

職員の方も気づかいして頂いてありがたいです。

前の施設でシーツ交換していた事もあり業務に負担はありません。

仕事は時間との戦いですがやりがいのある仕事です。

21

介護職員の声

早朝からの業務を担当してもらえるようになり、夜勤明けの最もきつい残業時間帯に大変助かっている。その分申し送りや、入居者の状態変化に気づくことも増えてきています。

早番の朝は、業務に追われていましたが、時間の余裕ができ、一人ひとりの入居者に丁寧に対応できるようになっていることを実感しています。

入居者の見守り業務をしていただいておりますが、今ではなくてはならない役割になっています。

23

入居者1名専属で食事介助に入る事で職員の負担軽減はありますがそれ以上に効果がありました。

ほとんど声掛けに声を発す事がなかった入居者が介護助手さんの継続した声掛けで今では食事介助前食事時の声掛けに元気で答える様子もあり職員も驚き家族にお伝えした所非常に喜ばれました。

22

今後の展望と課題

- ・課題としては年齢的に体力面の心配。
- ・施設側が支援を希望する時間帯（早朝、夕方）を希望する介護助手が少ない。
- ・未経験の方の業務の切り分けの進め方

24

介護助手の方は、居室清掃の際、若い職員が気づかない部分もしっかりきれいにするなど仕事が非常に丁寧で、学ばせてもらうところがたくさんあります。

介護助手を導入して、直接的な介護以外の業務負担が軽減できたと思います。介護職員ではなかなか手が回らない部分の掃除などもしていただきとても助かっています。また、入居者の方からは、話し相手ができる嬉しいといったお話をいただきました。

介護助手を導入したことで、介護職員の労働時間が削減され、日々の業務を心に余裕を持って行うことができるようになりました。

介護助手の人数も徐々に増えてきたので、今後も必要な曜日・時間帯等をしっかりと設定し、そこにマッチする人を採用していけたらと考えています。

25



ご清聴有難うございました。



社会福祉法人 暁会

27

**平成29年度 山口県老人福祉施設協議会
フォトコンテスト 入賞作品**



26